

津波注意報発表中の対応について

1 津波警報から津波注意報に切り替わった場合

(1) 避難場所に待機とする。理由として、避難場所から家や学校に行く途中が海岸沿い、川沿いの場合、津波に遭遇する危険性があるため。また、児童生徒が海や川に近づくことを防ぐ必要がある。津波注意報解除時に避難場所での待機も解除とする。

【根拠資料1の④、根拠資料2の②】

(2) 市町村の避難指示が解除となった場合はそれに従うこと。ただし、児童生徒の通学路が複数市町村にまたがる学校、または海や川の近くの学校は、上記(1)を最大限考慮すること。

2 津波注意報のみ発表の場合

(1) 学校で待機（授業を行ってもよい）。海岸付近にいる場合は、海岸から離れるなどすぐに避難すること。【根拠資料1の②、根拠資料2の①】

(2) 津波注意報から津波警報に切り替わった場合は、直ちに避難すること。

【根拠資料1の①】

ホーム > 知識・解説 > 津波警報・注意報、津波情報、津波予報について

津波警報・注意報、津波情報、津波予報について

津波警報・注意報

気象庁は、地震が発生した時には地震の規模や位置をすぐに推定し、これらをもとに沿岸で予想される津波の高さを求め、地震が発生してから約3分（一部の地震※については約2分）を目標に、大津波警報、津波警報または津波注意報を、[津波予報区](#)単位で発表します。

※日本近海で発生し、緊急地震速報の技術によって精度の良い震源位置やマグニチュードが迅速に求められる地震

この時、予想される津波の高さは、通常は5段階の数値で発表します。ただし、地震の規模（マグニチュード）が8を超えるような巨大地震に対しては、精度のよい地震の規模をすぐに求めることができないため、その海域における最大の津波想定等をもとに津波警報・注意報を発表します。その場合、最初に発表する大津波警報や津波警報では、予想される津波の高さを「巨大」や「高い」という言葉で発表し、非常事態であることを伝えます。

このように予想される津波の高さを「巨大」などの言葉で発表した場合には、その後、地震の規模が精度よく求められた時点で津波警報・注意報を更新し、予想される津波の高さも数値で発表します。

津波警報・注意報の種類

種類	発表基準	発表される津波の高さ		想定される被害と取るべき行動
		数値での発表 (予想される津波の高さ区分)	巨大地震の場合の発表	
大津波警報	予想される津波の最大波の高さが高いところで3mを超える場合。	10m超 (10m < 予想される津波の最大波の高さ)	巨大	巨大な津波が襲い、木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、 ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難 してください。
		10m (5m < 予想される津波の最大波の高さ ≤ 10m)		
		5m (3m < 予想される津波の最大波の高さ ≤ 5m)		
津波警報	予想される津波の最大波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合。	3m (1m < 予想される津波の最大波の高さ ≤ 3m)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、 ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難 してください。
津波注意報	予想される津波の最大波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。	1m (0.2m ≤ 予想される津波の最大波の高さ ≤ 1m)	(表記しない)	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。 海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。

*大津波警報を「特別警報」に位置づけています。特別警報に関する詳しい情報は、[「特別警報について」](#)のページをご覧ください。

津波警報・注意報と避難のポイント

- ③ 震源が陸地に近いと津波警報・注意報が津波の襲来間に間に合わないことがあります。強い揺れや弱くても長い揺れを感じたときは、すぐに避難を開始しましょう。
- 津波の高さを「巨大」と予想する大津波警報が発表された場合は、東日本大震災のような巨大な津波が襲うおそれがあります。直ちにできる限りの避難をしましょう。
- 津波は沿岸の地形等の影響により、局所的に予想より高くなる場合があります。ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう。
- ④ 津波は長い時間くり返し襲ってきます。津波警報・注意報が解除されるまでは、避難を続けましょう。



津波では、どのような災害が起こるのか

ポスト



津波ではどのような災害が起こるのか？

津波の時はどのように行動したらいいか？

強い揺れや弱くても長い揺れを感じたら、また地震を体で感じなくても、「津波警報」等を見聞きしたら、いち早く海岸から離れ、可能な限り高い場所へ避難してください。

- ① 海水浴等により海岸付近にいる人は、「津波注意報」でも避難が必要です。海からあがる、海岸から離れるなど、すぐに避難を開始してください。

避難をする時は、近くの高台や津波避難タワー、津波避難ビルなどに向ってください。

第一波の引いた後に家に戻り第二波にのみこまれ被害に遭ったケースや、余震により再度津波が発生するケースもあり、津波警

- ② 報・注意報が解除され安全が確認されるまでは決して被災地域には立ち入らないでください。

津波の災害から身を守るためには、日頃から津波に関する情報を収集したり、津波ハザードマップなどで家の周りの安全な避難場所を確認しておく必要があります。

津波は想像を超える速さ、あるいは想像を超える場所からやってくることを認識しておきましょう。

